

仕事と自己啓発の月刊誌「OLマニュアル」

OLmanual

<http://www.kens-p.co.jp>

特別企画

「感情に振り回されない人」
になるための練習帳



JULY. 2012
Vol.24 No.281

07

最近、男女を問わず、企業の中核であるベテラン社員を対象にしたマナー研修の依頼をよく受けます。受講者であるベテラン社員は、今さらマナー研修なんて……という抵抗感があるようです。とくに業績面で実績を上げていたり、技術系や専門職にはこの傾向が強いように思えます。でもマナーは決して新人だけのものではありません。組織内での環境の変化（異動や昇格）と共に、その人自身の人間力を表現する道具として必要なスキルと捉えるべきではないでしょうか。

ベテラン社員の皆さんには、マナーという言葉そのものに抵抗感があるのかも知れません。じつは私自身、マナーの先生と言われると妙に居心地が悪いのです。運転しながら大口を開けてパンをかじったり、両手がふさがっていると足で引き出しを閉めることもあるからです。こんな人が「マナーの師」であるはずはないのです。

そこで私は自分自身を対人戦略研究者と呼んでいます。どんなに能力があっても人は一人では生きていけないことは誰

★ 巻頭エッセイ

相部博子の

マナーは人のためならず

新連載
No.1

マナーの意味を
再認識する



相部博子 人材育成コンサルタント/ビーフォーシー代表取締役

私立鴨友学園女子高等学校卒業後、NewZealandクライストチャーチランギルススクールへ留学。その後、NewZealandミートプロデューサーズポート東京オフィス勤務。以降、日本航空株式会社、日本語講師、クラーナーの輸入代理店、ニューヨークの日本語放送東京支社、日本で初の禁煙ラボの経営、及びカウンセラーなど、様々な業種と業務を経験し、平成元年6月に株式会社ビーフォーシーを設立。<http://www.bforc.co.jp/>

もが知っています。私たちは必ず誰かと関わり恩恵を受けながら生きています。その周囲との関わりをどのように築いていくのか、価値観も思考も好みも違う人たちが協働していくためには、当然そこにルールが存在します。相手を不快にさせず、自分の意思を伝え理解してもらわなければ、共存は成り立たなくなるからです。

日本には社会の中で昔から培われていた暗黙の了解と呼ばれるルールがたくさんありました。「刺青禁止」と書いてなくても、その筋の人でなければなりません。シルバースーツを設けなくても、お年寄りには当然席を譲ったものです。しかし、残念ながらこうした時代は過去のものになってしまったようです。

だからこそ、いまマナーの持つ意味を再確認する必要があります。マナーとして画一的に捉えるのではなく、対人戦略としてマナーを捉えなおす時代になっているのです。